

日蓮大聖人御書全集

ろくろろうさねながごしょうそく

六郎実長御消息

新版
1804
ゝ
1806

ろくろうさねながごしようにそく

六郎実長御消息

ぶんえい ねん がつ はき いさねなが

文永 6 年 ('69) 9 月 * 波木井実長

せん ねんぶつ むけんじごく い ぎ ふた あ

詮ずるところ、念仏を無間地獄と云う義に二つ有り。

いち ねんぶつしや むけんじごく にほんこく いっさい ねんぶつしゆ

一には、念仏者を無間地獄とは、日本国の一切の念仏衆の

がんそ ほうねんしようにん せんちやくしゅう じようどさんぶ のぞ いげ

元祖・法然上人の選択集に、浄土三部を除いてより以外、

いちだいしようにきよう ほけきよう だいにちきよう だいはんにやきようとう いっさい

一代聖教、いわゆる法華経・大日経・大般若経等、一切

だいしよう きよう か あ しゃへいかくほう とううんぬん

大小の経を書き上げて、「捨閉閣抛」等云々。

しようにん ききよう あ じようど

これについて、上人、亀鏡と挙げられしところの浄土

さんぶきよう なか そうかんぎよう あみだぶつ いんい ほうぞうびく

三部経のその中に、双観経の阿弥陀仏の因位・法蔵比丘の

しじゅうはちがん い

ぎやく

ひぼうしようほう

のぞ

四十八願に云わく「ただ五逆と誹謗正法とのみを除く」と

うんぬん

ほうねんしょうにん

ないしじゅうねん

なか

い

たも

云々。法然上人も「乃至十念」の中には入り給うといえ

ほけきよう もん と

か

そうら

あみだぶつ

ども、「法華經の門を閉じよ」と書かれて候えば、阿弥陀仏

ほんがん も

ひと

でし

だんなとう

の本願に漏れたる人にあらずや。その弟子、その檀那等も、

またもつてかくのごとし。

ほけきよう もん

ひとしん

ないし

ひと

みようじゅう

法華經の文には「もし人信ぜずして乃至その人は命終

あびごく い

うんぬん

あみだぶつ

ほんがん

ほけきよう

して、阿鼻獄に入らん」と云々。阿弥陀仏の本願と法華經の

もん しんじつ

ほうねんしょうにん

むけんじごく

お

ひと

文と真実ならば、法然上人は無間地獄に堕ちたる人にあら

いっさい

きよう

しょうそう

さだ

い

しお

でしお

ずや。一切の經の性相に定めて云わく「師堕つれば弟子堕

でしお　だんなお　うんぬん　たと　むほん　もの
つ。弟子墮つれば檀那墮つ」と云々。譬えば、謀叛の者の

ろうじゅうとう

ごふしんあ

せんちやく

ひけん

郎従等のごとし。御不審有らば、選択を披見あるべしへこ

いち

れ一。

に

ねんぶつ

むけんじごく

ほけきよう

じよぶん

むりようぎきよう

二には、念仏を無間地獄とは、法華經の序分・無量義經に

い

ほうべんりき

しじゅうよねん

しんじつ

あらわ

云わく「方便力をもつて、四十余年にはいまだ眞実を顕さ

うんぬん

つぎしも

もん

い

むりようむへん

す

ないしつい

ず」云々。次下の文に云わく「無量無辺を過ぐるとも乃至終

むじようぼだい

じよう

え

うんぬん

ほとけ

しよじようどう

とき

に無上菩提を成ずることを得ず」云々。仏、初成道の時

びやくろち

ほとり

いた

ねんき

挙

しじゅうよねん

さ

より白鷺池の辺に至るまで年紀をあげ、四十余年と指して、

なか

いっさいきよう

あ

なか

だいぶ

きようしぶ

しぶ

その中の一切經を挙ぐる中に大部の經四部、その四部の

なか つぎ ほうどうじゅうにぶきよう と うんぬん ねんぶつしゃ ごしんよう

中に「次に方等十二部經を説く」云々。これ念仏者の御信用

そうろうさんぶきよう あ しんじつ うんぬん つぎ

候 三部經なり。これを挙げて「真実にあらず」云々。次に

ほけきよう い せそん ほうひき のち かなら まき しんじつ

法華經に云わく「世尊は法久しくして後、要ず当に真実を

と ねんぶつとう ふしんじつ たい

説きたもうべし」とは、念仏等の不真実に対し、

なんみようほうれんげきよう しんじつ もう もん

南無妙法蓮華經を真実と申す文なり。

つぎしも い ほとけ みずか だいじよう じゅう ないし

次下に云わく「仏は自ら大乘に住したまえり乃至も

しょうじよう ないしひとり け われ すなわ けんどん だ

し小乗をもつて乃至一人をも化せば、我は即ち慳貪に墮

こと ふか うんぬん もん こころ ほけきよう

せん。この事は不可となす」云々。この文の意は、法華經

ほとけむね ひ 納 かんぎよう ねんぶつとう しじゅうよねん きよう

を仏胸に秘しおさめて、觀經・念仏等の四十余年の經ば

ひとびと さず

ほけきよう と

もくし

かりを人々に授けて、法華經を説かずして黙止するならば、

われ けんどん もの

さんあくどう お

もん

我は慳貪の者なり、三惡道に墮つべしという文なり。

ほとけ

ねんぶつ

ぎよう

いつしよう

過

ほけきよう

仏すらなお、ただ念仏を行じて一生をすごし法華經に

うつ とき

じごく

お

うんぬん

まつだい

ぼんぷ

移らざる時は、地獄に墮つべし云々。いわんや、末代の凡夫、

いつこう

なむあみだぶつ

もう

いつしよう

ほけきよう

うつ

一向に南無阿弥陀仏と申して一生をすごし、法華經に移つ

なんみようほうれんげきよう

とな

もの

さんあくどう

まぬが

て南無妙法蓮華經と唱えざる者、三惡道を免るべきや。

だいに かん

い

いま

さんがい

とううんぬん

もん

にほん

第二の卷に云わく「今この三界」等云々。この文は、日本

こく ろくじゅうろつかこく

しまふた

だいち

きようしゆしやくそん

ほんりよう

国、六十六箇国・島二つの大地は、教主釈尊の本領なり。

しやば

まつた

あみだぶつ

りよう

娑婆もつてかくのごとく、全く阿弥陀仏の領にあらず。

なか しゅじょう

わ こ

うんぬん にほん

「その中の衆生は、ことごとくこれ吾が子なり」云々。日本

こく よんじゅきゅうおくきゅうまんよんせんはつびやくにじゅうはちにん なんによ おのおのふぼあ

国の四十九億九万四千八百二十八人の男女、各父母有

せん たず きょうしゅしやくそん みこ

りといえども、その詮を尋ねれば教主釈尊の御子なり。

さんぜんよしや だいしろう じんぎ しやくそん ごしそく まった

三千余社の大小の神祇も釈尊の御子息なり。全く

あみだぶつ こ

阿弥陀仏の子にあらざるなり。

くがつ

九月 日

にちれん かおう

日蓮 花押

なんぶのろくろうさねながどの

南部六郎実長殿